

寒冷地におけるトルコギキョウの生産安定技術

第2報 作期と育苗における仮植の要否

柴田 浩・斉藤 洋・水越 洋三

(秋田県農業試験場)

Improvement for Producing Russell Prairie Gentian (*Eustoma grandiflorum* (Raf.) Shiner.) in the Cold Climate Region

2. Propriety of temporary planting on raising seedling by cropping season

Hiroshi SHIBATA, Hiroshi SAITO and Yozo MIZUKOSHI

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

秋田県のトルコギキョウ栽培は、1985年ころから急速に伸び注目されている。しかし、育苗が困難であることや、仮植等に多くの労力を要することなどが規模拡大や栽培者の増加を妨げている。このようなことから、本報では育苗中の仮植の有無が定植後の生育・開花・切花品質に及ぼす影響について、播種期別に検討したので、その結果を報告する。

2 試験方法

- (1) 供試品種 紫紺源氏 (早生), 紫苑 (中生)
- (2) 播種期 9月16日, 11月25日, 1月19日, 2月16日
- (3) 仮植の有無 有 (本葉2~3枚時), 無

(4) 試験規模 1区54株 (1月播種 紫苑のみ63株)

(5) 耕種概要

育 苗 法	播 種			
	9.16	11.25	1.19	2.16
仮 植 育 苗	仮植期 11.30	2. 6	3. 6	4. 3
	定植期 2. 7	3. 8	4.18	5.13
無仮植育苗	定植期 1. 6	2.16	4. 3	4.13

播種から発芽まで最低気温23℃, 発芽から本葉2枚まで最低気温20℃, 本葉2枚から定植まで最低気温10℃, 定植後は無加温温室で管理した。

定植期: 本葉4~5枚時 (3対葉出始め)

栽植距離: 12×10cm・9条植え

施肥量 (kg/a): N: 1.0kg, P₂O₅: 2.0kg, K₂O: 1.5kg

表1 仮植の有無と生育・開花に及ぼす影響

品 種	播 種 期 (月日)	仮 植 の 有 無	育 苗 日 数 (日)	欠 株 率 (%)	採 花 本 数 (本/㎡)	採花期 (月日)			① 到 花 日 数 (日)	② 到 花 日 数 (日)
						始期	盛期	終期		
紫 紺 源 氏	9.16	有	144	16.7	62.5	7.14	7.20	7.25	307	163
	9.16	無	112	64.8	26.4	7.18	7.23	7.28	310	198
	11.25	有	103	0	75.0	7.23	7.30	8. 3	247	144
	11.25	無	83	24.1	56.9	7.25	7.30	8. 5	247	164
	1.19	有	90	0	75.0	8. 3	8. 7	8.15	200	110
	1.19	無	75	3.7	72.2	7.28	8. 5	8.13	198	123
	2.16	有	87	0	75.0	8.12	8.16	8.21	181	94
	2.16	無	57	1.9	73.6	8. 2	8. 7	8.18	172	115
紫 苑	9.16	有	144	13.0	65.3	7.30	8. 3	8.10	321	177
	9.16	無	112	38.9	45.8	7.31	8. 6	8. 9	324	212
	11.25	有	103	0	75.0	8. 4	8. 9	8.15	257	154
	11.25	無	83	5.6	70.8	8. 6	8.13	8.18	261	178
	1.19	有	90	0	75.0	8.14	8.18	8.22	211	121
	1.19	無	75	1.6	73.8	8.10	8.15	8.20	208	133
	2.16	有	87	0	75.0	8.22	8.27	9. 9	192	105
	2.16	無	57	0	75.0	8.16	8.19	9. 1	184	127

注. ①到花日数: 播種から採花盛期までの日数

②到花日数: 定植から採花盛期までの日数

採 花 期: 採花本数中10%採花を始期, 50%採花を盛期, 90%採花を終期とした。

3 試験結果及び考察

(1) 育苗日数

両品種、各播種期とも無仮植育苗が仮植育苗より15～30日程度定植が早まった。また、播種期が遅れるほど育苗日数は少なくなった(表1)。

(2) 欠株

両品種とも無仮植育苗で多く発生した。特に9月播種(1月6日定植)の紫紺源氏で約65%、紫苑で約40%と多かった。また、仮植育苗でも約13～17%程度欠株がみられた。11月播種は、無仮植育苗(2月16日定植)の紫紺源氏で約24%、紫苑で約6%の欠株があったが、仮植育苗(3月8日定植)では欠株はなかった。1月、2月播種では欠株は極めて少なく、仮植育苗では全くなかった(表1)。

(3) 採花期

9月播種では、仮植・無仮植育苗とも紫紺源氏が7月中・下旬、紫苑が7月下旬～8月上旬、11月播種では、紫紺源氏が7月下旬～8月上旬、紫苑が8月上・中旬であり、9月、11月播種での仮植の有無による採花期の違いは、2～4日と大きな差ではなかったが、仮植育苗で早かった。

1月播種では、紫紺源氏が仮植育苗で8月上・中旬、無仮植育苗で7月下旬～8月中旬、紫苑は、仮植育苗で8月中・下旬、無仮植育苗で8月中旬であった。2月播種では、紫紺源氏が仮植育苗で8月中旬、無仮植育苗で8月上・中旬、紫苑では、仮植育苗が8月下旬～9月上旬、無仮植育苗が8月中・下旬であった。1月、2月播種では、9月、11月播種とは逆に無仮植育苗がで採花が早まり、両品種とも1月播種で2～3日、2月播種では8～9日早まった。(表1)

(4) 収穫物

9月播種では、両品種とも無仮植育苗で切花長の大きい個体が多く、切花形質もまさらった。これは、無仮植育苗で欠株が多く発生したため、生存個体の生育が旺盛となったためで、仮植の有無による差ではないと考えられる。

11月播種では、仮植育苗で切花長の大きい個体が多く、品質も良かった。

1月、2月播種では、9月、11月播種(秋播き)とは逆に仮植育苗より無仮植育苗で切花長の大きい個体が多く、品質も優れていた(表2)。

(5) 以上のことから、9月～11月播種(秋播き)の場合、

表2 仮植の有無と切花形質に及ぼす影響

品 種	播 種 期 (月・日)	仮 植 の 有 無	切 花 長 (cm)	切 花 重 (g)	茎 径 (mm)	節 数 (節)	花 蕾 数 (個)	側 枝 数 (本)	切花長別割合(%)	
									70cm 以上	70～61 (cm)
紫 紺 源 氏	9.16	有	82.2	88.0	6.5	12.0	21.2	4.8	80.0	15.6
	9.16	無	87.3	116.4	6.8	10.1	34.5	5.3	100	0
	11.25	有	85.3	78.1	6.5	10.6	22.2	4.4	94.6	5.4
	11.25	無	81.7	66.2	6.0	9.6	21.8	3.9	65.9	19.5
	1.19	有	70.2	69.1	6.1	8.0	23.2	3.8	53.9	30.8
	1.19	無	72.3	52.0	5.3	7.5	17.3	2.9	82.7	9.6
	2.16	有	62.8	35.0	3.9	7.0	14.2	2.4	10.3	15.4
	2.16	無	71.0	47.4	5.1	7.4	16.4	2.8	49.0	34.0
紫 苑	9.16	有	83.2	130.6	6.0	13.8	45.9	9.0	80.9	14.9
	9.16	無	88.9	135.5	6.0	14.3	50.2	8.8	93.9	6.1
	11.25	有	87.4	100.6	6.0	12.1	33.0	6.3	94.8	3.5
	11.25	無	86.5	100.9	6.1	13.0	31.0	6.3	90.2	5.9
	1.19	有	74.4	110.0	5.9	12.8	36.8	6.8	35.8	30.2
	1.19	無	76.6	120.0	6.1	11.2	40.8	7.8	72.6	21.0
	2.16	有	65.2	55.0	4.4	10.6	22.0	5.8	10.6	61.7
	2.16	無	75.4	104.0	5.6	11.0	31.4	5.8	66.7	26.7

無仮植育苗(直接定植)れでは定植期が1月～2月の厳寒期となり、活着不良による欠株が多く、品質もやや低下することから、仮植育苗が必要と思われる。また、1月～2月播種(春播き)の場合は、無仮植育苗(直接定植)が良いと思われる。

月播種(秋播き)では定植が1月～2月の厳寒期となり、無仮植育苗(直接定植)では、定植後活着不良による欠株が多発することや、品質もやや低下することから、採花率及び切花品質の向上にとって仮植育苗が必要である。

1月～2月播種(春播き)では、無仮植育苗(直接定植)で初期生育も順調に進み、開花も早く、切花品質も優れることから、無仮植育苗でも良く、育苗の省力化が期待できる。

4 ま と め

トルコギキョウの無加温施設栽培においては、9月～11